

■（９）「先生にいいつける」は大切な情報源！

青色の中国漁船が巡視船の船尾に衝突！白い波しぶきに加え、黒煙がもうもうとあがる…。政府が「非公開」としてきた尖閣諸島沖の映像がインターネット動画サイトに投稿された。政府は「犯人捜し」に躍起。結局、海上保安官が「自分が流した」と名乗り出た。

一般的に義憤にかられて組織内の隠された問題を世の中に訴える「内部告発」は、新聞社にとって大切な情報源だ。社会部で泊まり勤務をすると、「情報提供をしたい」という電話がよくかかってくる。多くは深夜・未明で、名前は名乗らない。発信番号が特定されない公衆電話からも少なくない。差出人不明の手紙やファクス、匿名の電子メールも届く。

話を聞き、資料提供などを頼む。情報源を明かさない記者の原則を理解してもらい、信頼関係を築きながら取材する。総合的に判断して社会に問うべき話ならば記事にする。

学校でも隠れたところで悪さをする子はいつの時代もある。「先生にいいつける」が昔のささやかな対応法だった。今なら、例えば校内では禁止の携帯電話からのメールかも。そこでとるべき対応は、校則うんぬんよりも、まずは問題にメスを入れることですよね（山）